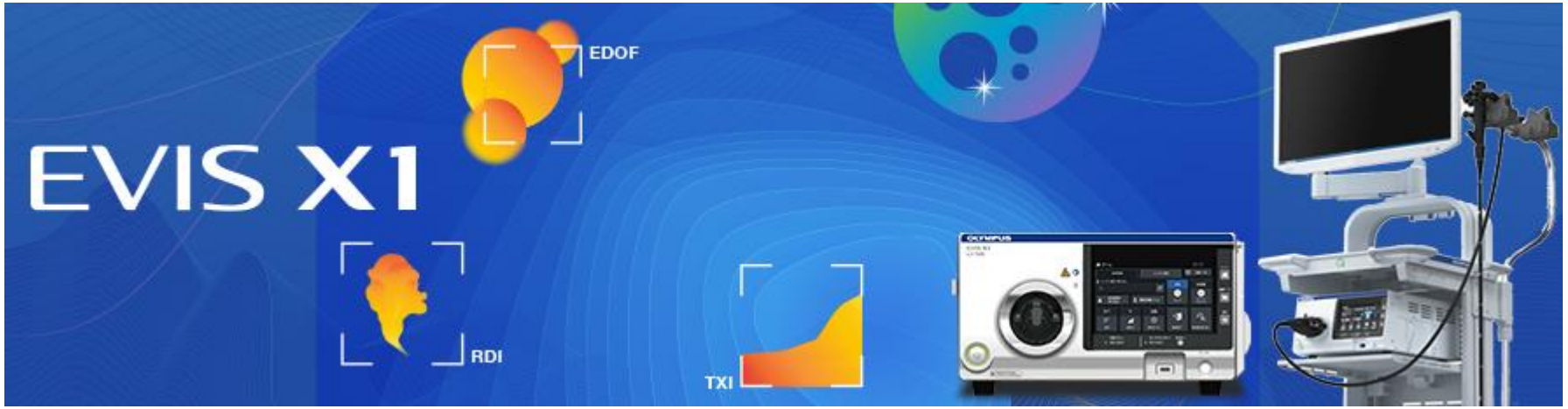
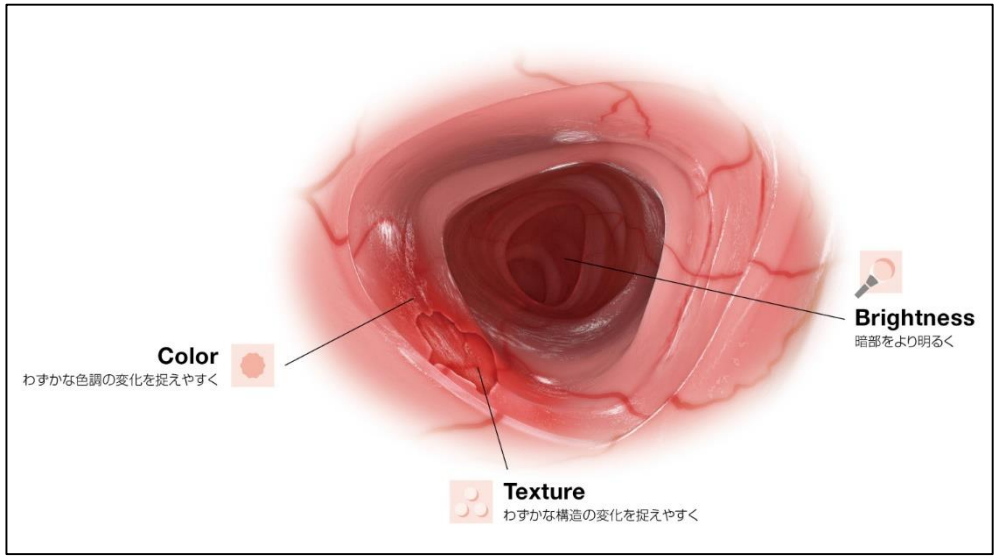


内視鏡システム「EVIS X1」（イーヴィス エックスワン）

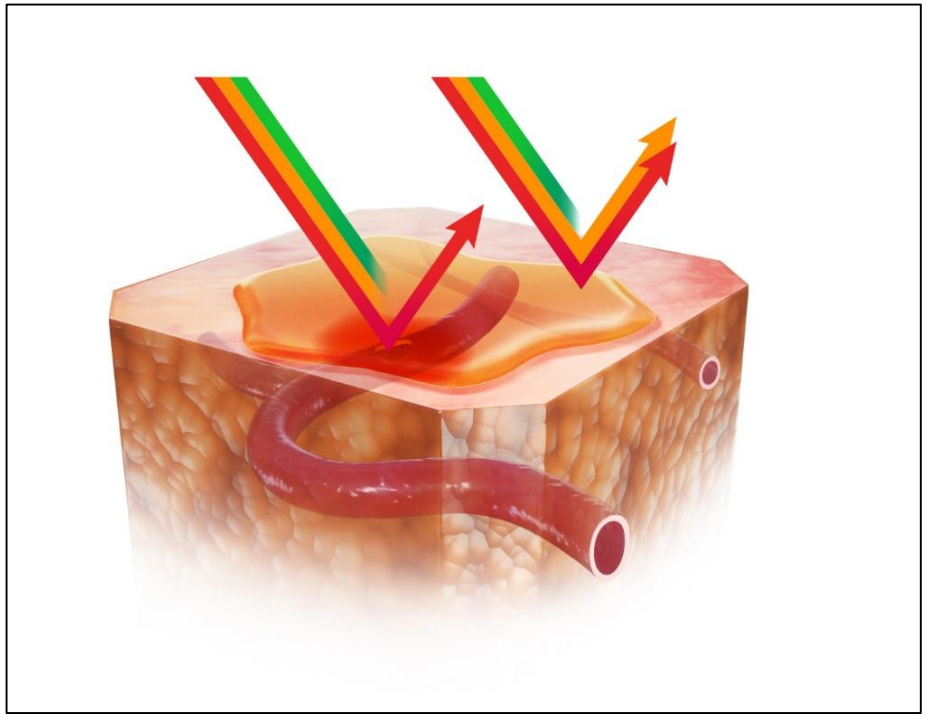
「EVIS X1」は、 TXI・RDI・EDOFなどの革新的テクノロジーを多数搭載しており、病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指した技術を搭載することで、がんなどの消化器疾患の早期発見・早期診断・低侵襲治療を行うことができる次世代の内視鏡システムです。

当院では、2020年9月に「EVIS X1」（製造販売：オリンパス株式会社）を3台導入しております。



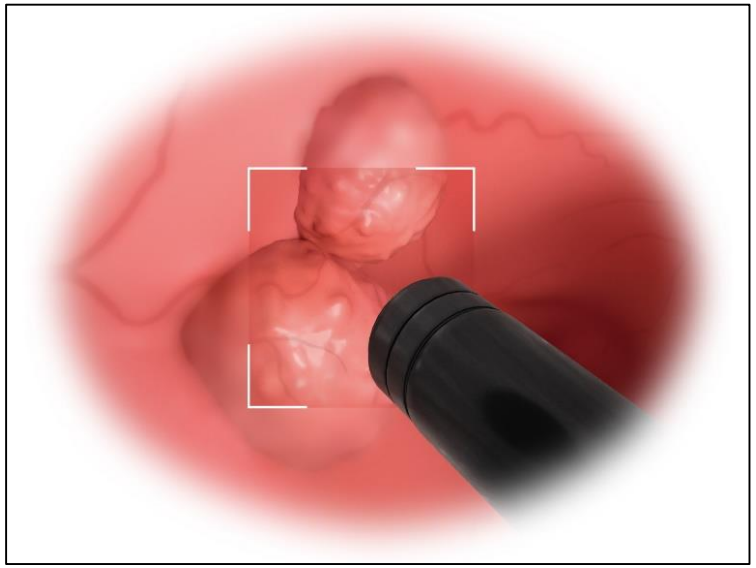
TXI(構造色彩強調機能)：TeXture and color enhancement Imaging

TXIは、通常光観察での粘膜表面の情報に基づき、「構造」「色」「明るさ」という観察時に重要な要素を最適化する画像処理技術です。
内視鏡検査では、粘膜表面の色や構造の変化を見つけることが重要になります。
TXIを活用することで、粘膜のわずかな色調や構造の変化が強調されて視認しやすくなります。
検査時の病変発見などの観察性能向上が期待されます。



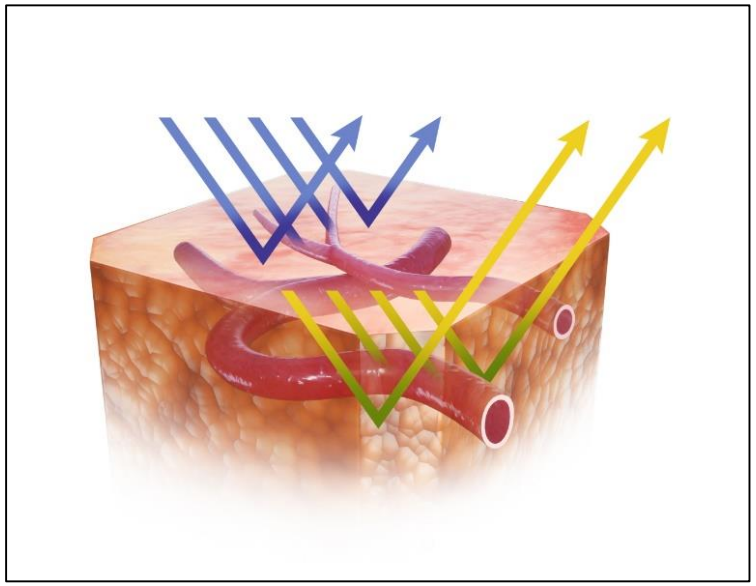
RDI(赤色光観察)：Red Dichromatic Imaging

RDIは、赤・アンバー・グリーンの3色の狭帯域化された波長の光を使用して深部組織のコントラストを形成する最新技術です。
内視鏡治療では消化管出血を伴う場合がありますが、RDI観察を行うことにより粘膜深部にある血管や出血時の止血ポイントが視認しやすくなり、今まで以上に的確で素早い止血処置が可能となることで、より安全で効率的な治療が可能になることが期待されます。



EDOF(被写界深度拡大技術)：Extended Depth of Field

近い距離と遠い距離のそれぞれに焦点のあった2つの画像をリアルタイムで合成することで広い範囲でピントのあった画像を得る機能です。
心臓の拍動や臓器の動きの激しい場面でのピント合わせを容易にすることで、多くの場面でより綺麗な画像での観察を可能とすることが期待されます。



NBI(狭帯域光観察)：Narrow Band Imaging

NBIは、紫・緑の2色の狭帯域化された波長の光を使用して粘膜表層の血管や微細な構造を強調表示します。
癌などの早期発見に力を発揮し、従来より内視鏡診療で広く用いられる有用な機能です。